



共翔

第25号



ライブ君



目次

【巻頭言】「本との出会い～学ぶのは全て歴史から～」 杉山慎策……………2

【随想】「就実図書館の変遷」 岡部由文……………4

【図書館活動報告】……………6

【図書館セミナー実施報告】……………7

【学生協働】

・シンポジウム参加報告……………8

・図書館サポーター自主企画報告……………10

・ブックハンティング報告……………12

【ブックガイド】……………14

【ユーズーズガイド】

・My Library機能について……………16

・文庫本を探してみよう……………17

e-Book(電子書籍)活用講座～リモートアクセス編……………18

【利用者へのメッセージ】……………20



ハリー



てうちゃん

てうちゃんとハリーはライブ君のお友達募集で選ばれました。みんな仲良くしてください。

巻頭言



「本との出会い ～学ぶのは全て 歴史から～」

就実大学・就実短期大学
副学長・経営学部長

杉山 慎策

私は生来身体が弱く子供時代には病氣ばかりしてしていました。右の足に大きな窪みのような痣が残っていますが、これは4歳のころに自宅でリンゲルの注射をされた跡です。小さな針の跡ですが、大人になると1センチ近くの痣となって残っています。記憶の片隅に、裸電球の眩しい中で天井からつるされた点滴を覚えています。リンゲルという名前も子供の時から聞いて覚えています。皮下注射でとても痛かったので大声で泣き叫んだ記憶があります。小学校時代も風邪や胃炎などで休むことが多くありました。3年生の時には腎臓炎で長期に休むことになったことがあります。恐らく小学校6年間で最低でも1年以上は休んでいると思います。両親は真剣に1年遅らせることを相談していましたが、何とか遅れないですみました。

腎臓炎は食事療法が大切でほとんど塩分の入らない食事を母が特別に

作ってくれていました。家族の他のメンバーは通常の食事ができるのに自分だけ減塩のおいしくない食事を食べさせられたと思っていました。それ以外特別な治療法は無くとにかく過激な運動もしないで家でゴロゴロしていました。当時はまだテレビも無い時代で、日本の多くの家庭も貧しい時代でしたが、中でも我が家はとても貧しい家庭でした。家にはほんの数冊の本しかありませんでした。それは祖父の本でした。その中に吉川英治の『鳴門秘帖』があったのです。私が人生で最初に読んだ本はこの『鳴門秘帖』です。勿論小学3年生の読むべき本でもないし、言語能力から言ってもかなり無理があったことは間違いありません。しかし、私はこれを読破してしまいました。未だに大筋のストーリーを覚えているので子供の頃にインプットされた記憶は長く残るものだと思います。本の面白さを学んだためかも

知れませんが、病気が治り、復学後小学校の図書館の本を借りて読むことを覚えました。田舎の小さな小学校でしたが、恐らく一番本を借りて読んでいた生徒でした。

本の好きな人のことを英語では“Bookworm”と言います。日本語でも「本の虫」という表現があります。この「虫」は「弱虫」や「泣き虫」のような表現で使用される意味と同じです。英語と日本語に同じような表現があることが不思議です。私は恐らく小学校時代に「本の虫」に取りつかれたのでしょうか。

私の専門分野の経営学にはポストンコンサルティングが考案したPPMという理論があります。市場の成長性と市場シェアのマトリックスから戦略を決定するというものです。成長性も高くシェアも高いポジションを「スター：“Star”」と言います。この逆の成長性も低くシェアも低いポジションを「負け犬：“Underdog”」と言います。今年が戌年ですが、この「犬」というのは前述の「虫」に似ています。ナイキの創業者のフィル・ナイトは2016年に発売した自伝を“Shoe Dog”「靴の犬」と名付けています。「靴に取りつかれた人」という意味だと解説されていますが、この“Dog”には彼が抱いていたコンプレックスがあると思います。その意味で「犬」のニュアンスは日本語の「虫」に近いように感じます。

話を戻します。中学の時も病気がちであり活発に運動などをした記憶はありません。本にもそれほど真剣に接しませんでした。ところが高校になるとまた私の「本の虫」が蠢きだし図書館に通うことになりました。多くの本を読みましたが、一番集中して読んだのは夏目漱石です。

図書館にあった夏目漱石の本や関連した本は全て読みました。どういうわけか当時は夏目漱石が一番のお気に入りでした。後に社会人になり夏目漱石が留学していたロンドンに赴任することになり、小躍りしたものです。夏目漱石の時代には「霧の都」と言われていたロンドンも、暖炉で石炭を燃やすことが無くなっていて、全く「霧」の発生しない都市となっていることに少々がっかりした思い出があります。

言うまでもなく、私たちは全て過去から学んでいます。今日私たちが享受している快適な生活は過去の多くの先人たちの遺産のお蔭です。その遺産を入手するには「本」だけでなく、スマートフォンやSNSなどの新たな方法もあります。しかし、学ぶことは過去からしかありません。その過去を学ぶ最適の方法はやはり「本」だと思っています。「本」はどこへでも持ち運べ、明るさがあればどこでも読むことができます。Kindleなどデジタル情報がこれから拡がりそうですが、私はアナログな「本」が一番好きです。

明治の日本がモデルとしたプロイセンの首相であったビスマルクの言葉に「愚者は自分の経験に学ぶと言う、私はむしろ他人の経験に学ぶのを好む。」というのがあります。長寿社会になったとは言え所詮一人の経験値は限られています。過去の多くの人々の残した経験値の中に未来に向かって生きる知恵があるのだと思います。20年後も50年後も人々が本を大切に、読書から多くのことを学んで欲しいと願っています。

就実図書館の変遷

人文科学部 表現文化学科教授

岡部 由文



就実学園の誕生は1904（明治37）年の岡山実科女学校の設立に遡りますが、高等教育への展開を遂げたのは1953（昭和28）年に家政科のみの単科短期大学設置を契機とし、校地は現在の高校・中学が所在する弓之町でした。短期大学は定員増と幼児教育学科増設によって手狭になった弓之町から現在のキャンパスである西川原へと移転したのです。1966（昭和41）年のことでした。さらに1972（昭和47）年には国文・英文の2学科を増設した上で、その2学科を日本文学科・英米文学科に昇格させたのが1979（昭和54）年に設置された文学部の単科大学就実女子大学です。それぞれ入学定員は50名という小さな出発だったのです。以来、1999（平成11）年に大学院設置、2003（平成15）年には薬学部を増設、同時に名称を就実大学に文学部を人文科学部に名称変更、2011（平成23）年には教育学部増設、2014（平成26）年には4学部目となる経営学部を増設して、現在は大学・短大併せて収容定員2860名（在学学生数は約3100名）の総合大学へと発展してきたのです。

こうした経過をたどった就実大学史の中で、施設や建物の拡充は目に

見えるかたちでキャンパスの整備状況を示しています。母校を訪ねた女子大学時代の卒業生が、ため息交じりで驚きの声を口にするほどの変化です。図書館も例外ではありません。図書館の充実が大学の實力を測る重要な指標の一つであることは疑いようもないのですが、現在の就実大学・短期大学図書館は大学図書館として施設・規模ともに一定の水準に達していると評価してよいでしょう。ここでは本学図書館の現状に、いくつかのデータを示しながら分析・評価を試みることにします。

大学図書館の充実度指標としてもっとも重要なのは、その蔵書数であることに異論はないでしょう。本学図書館が所蔵している蔵書数は、2017（平成29）年3月末現在で、34万3千冊余（学園要覧による）です。ちなみに我が国の大学図書館のうち蔵書数最多は東京大学の約958万冊（旺文社『大学の真の實力 情報公開BOX』2017年9月刊、以下同書による）、次いで京都大学の約700万冊、日本大学の約561万冊、早稲田大学の558万冊、慶応大学の490万冊と続きます。総じて国立大学が上位にランクされているのですが、各大学の歴



史と規模を考慮すれば領けるところです。本学図書館は情報公開されている736大学中250番目に位置しています。岡山県内15大学について見るならば、岡山大学の約205万冊が圧倒的（全国28位）で、岡山理科大学約47万冊（同178位）、ノートルダム清心女子大学約36万冊（同227位）、岡山商科大学34.4万冊（239位）の僅差で5番目ということになります。岡山県内の大学動向を勘案するならば、十分以上の充実速度といえるのです。

また、蔵書総量を在籍学生数との比率で量る、つまり学生一人当たり冊数という視点を導入するならば、2017年5月時点で一橋大学の638冊を筆頭に、東京大学629冊、京都大学489冊となり、国立大学の平均が350冊前後といった具合です。有力私立大学では、慶応大学164冊、早稲田大学110冊、日本大学85冊、同志社大学109冊、立命館大学85冊になります。岡山県内では、岡山大学209冊、ノートルダム清心女子大学156冊、岡山理科大学78冊、本学は111冊となるのです。

前に本学図書館が大学図書館として一定の水準に到達しているとの評価を示しましたが、数値をもってしてもこのことが明らかになるのです。加えて、もう一つ補っておきたいのは、特に日本文学分野の学術雑誌タイトル数に関することです。現在発行されている「就実表現文化」の前身であった「就実語文」が創刊され

たのは、女子大学設立から一年後の1980（昭和55）年のことでした。当時編集に携わった人々は、雑誌の刊行を機に、全国の大学が発信していた近隣分野機関誌との交換活動に力を尽くしたのです。結果、本学図書館には地方大学としては見張るタイトル数の学術雑誌が所蔵されているのです。これも充実の要件といえるのです。

本学図書館の現在における充実度を確認してきましたが、こうした整備が一朝一夕に成ったものでないことも言を俟たないでしょう。最後に現在の図書館に到達するまでの変遷を振り返っておきます。弓之町時代の短期大学については不明とするよりないものの、『就実学園百年史』によれば、西川原へと移転した1966年4月から四ヶ月ほどして落成した北館（現D館）三階に設けられた「図書室」が西川原キャンパスにおける図書館の起源であるとしてよいのです。それが1979年の女子大学設置のために建築されたL館一・二階を占めた時、「図書館」の名称が与えられたのです。1980年時点での蔵書数は、7万冊に121冊届かない規模でした。それが1998（昭和63）年12月に現在の図書館棟として竣工し、本格的に稼働を開始した2000（平成12）年には約25万冊に、そして34万3千冊が現在であり、図書館が就実大学・短期大学の歴史を体現していると思われることもできるのです。これも本学図書館の推移なのです。

本学図書館の充実には誇ってよいのです。これを活用しない手はないでしょう。是非とも「死蔵」とならぬよう願ってやみません。

図書館活動報告



4月

新入生対象図書館ガイダンス
(学生協働)

ゼミ生対象図書館利用案内
(～6月)

リユース本譲渡会

企画展示

「クラブ・サークル紹介」



6月

ブックハンティング

(学生協働)

→学生体験記 p.12～13

スペシャル講座

「日経バリューサーチ説明会
インターシップ編・基礎編」



7月

企画

「図書館で願い事(七夕)」

ピブリオバトル・読書会

(学生協働)



9月

企画展示「備前刀について」

「大学図書館学生協働交流

シンポジウムに参加」に参加

(学生協働)

→学生体験記 p.8～9

10月

絵本の読み聞かせ (学生協働)

→学生体験記 p.10～11

図書館セミナー特集

企画展示

「表現文化だより掲載図書」

11月

ブックハンティング (学生協働)

企画展示「学術講演会特集」

12月

スペシャル講座 「絵本翻訳の世界」

(講師：武部好子先生)

図書館謎解きゲーム「時代を越える本」

(学生協働)



12月

スペシャル講座 「絵本翻訳の世界」

(講師：武部好子先生)

図書館謎解きゲーム「時代を越える本」

(学生協働)



1月

読書会 (学生協働)

スペシャル講座

「あの「文豪」はどのような手紙を
書いたのか」

(講師：加藤美奈子先生)

一般雑誌譲渡会

2月

スペシャル講座 「日経バリューサーチ
講習会」

スペシャル講座 「Ebsco host講習会」

図書館セミナー報告



10月28日(土) 13時から、図書館5階AVホールにて、第8回図書館セミナー「図書館の基礎を作った江戸中後期文壇——江戸文壇と和学考証学」を開催しました。

今年は講師として、本学人文科学部教授である井上啓治先生をお招きしました。井上先生は日本近世の美術・芸文・演劇の研究されており、江戸文壇に関する雑学的な話を交えながらの講演は大変面白く、参加者の方々も大変熱心に聴講されました。当日は、あいにくの雨にもかかわらず、熱心な参加者の方々に恵まれました。

井上先生は、まず山東京伝の「考証学」について話されました。それは日本人の芸能演劇や民俗信仰等を、たくさんの証拠(文献や絵画資料等)を挙げて、その起源と盛衰などを探求するもので、〈実証主義〉という現代世界の学術研究の方法を用いて証明してゆくものであることを示されました。つまり京伝は200年前に、一人で今日の民俗学/芸能文化史学・演劇学などの学会を作り、学術研究の成果を積み上げていったことになりました。



そして「俗文壇」の頭領であった京伝が、どのような挫折の人生と作家生活を経て、考証学を切り拓いていったのか、また儒学とともに漢詩文と和歌を学び、和・漢の正統なる「学・芸」を深く修めた「雅文壇」の主導者にして「天明狂歌運動」をリードした大田南畝が、いかに京伝とその世界に関わっていったのか、お話いただきました。

狂歌は「雅」の和歌と「ずらし、逸(そ)らした」ものです。雅の「文人」にしかできぬ遊び、「戯作」です。つまり「俗」でもあります。そんな「俗」に深く関わる彼らが、「俗」とは対照的な「雅」の考証学に夢中になるのは意外なことに感じるかもしれません。しかし、実は「俗」

の文化は「雅」の文化が基礎になってできていました。一見対照的な「雅俗」の密接な関係性を明らかにし、両方を修めた文人作家として京伝と南畝のより深い魅力を教えていただきました。

その後、近世江戸期までの国書をまとめた『群書類従』を編纂した塙保己一について、この時代に「本を収集・整理した本」を出版する人物が出てきた背景についてお話しをいただきました。保己一もまた、南畝(京伝)の「雅文壇」周辺の人でした。

このような、江戸文化の新しい発見が盛りだくさんのお話で、その後の質疑応答は、参加者の方から多くの質問や感想が寄せられ盛況でした。

講演後は、井上ゼミの学生でもあり、図書館サポーターでもある学生による発表を行いました。ゼミの日常の様子や、井上先生の学生思いの人柄が伺える発表でした。



その後、図書館サポーターの案内で、参加者の方々には図書館を見学していただきました。図書館セミナー開催にあたり特別展示を企画し、学生には、「山東京伝」「大田南畝」の著書を紹介するPOPをたくさん作ってもらい、POPと合わせて、両者の著書年表も作成し、彼らがどんな作家だったのか一目で分かる展示となりました。素晴らしいご講演はもちろん、学生にも多大な協力をしてもらい、大変有意義な図書館セミナーでした。

次回の図書館セミナーも、学生たちとともに、地域の皆さんの期待に応えられるよう企画していきたいと思えます。





シンポジウム参加報告

第7回 大学図書館学生協働交流シンポジウム

図書館がきりひろく航路 (ミライ)

—悩み解決・つながり強化—

2017.9.5(火)～6(水)
愛媛大学 城北キャンパス

2017年9月5日・6日の2日間、愛媛大学で「大学図書館学生協働シンポジウム」が開催されました。本学図書館サポーターの中から、有志の学生2人が参加しました。全国各地から30大学、そして160人近くの参加者があり、多くの学生・教職員と学生協働の悩みについて語り合い、親交を深めました。以下はサポーターの体験報告です。ご覧ください！

1日目：9月5日 火

- 7:05 岡山駅集合
JR特急しおかぜ1号で松山駅へ
- 10:35 愛媛大学到着

オリエンテーションへ参加

学生協働について A. 悩んでいること B. 現状はどうなのか C. 今の時点でもできてきていること D. 未来のありたい姿 について、グループのメンバーと話し合いました

- 12:00～13:30 ランチミーティング (交流会)
共通の悩みをもつ者同士が、グループに分かれて情報交換しました。

愛媛の名産も各種用意されていました！
鯛飯、たこ飯、ボンジュースなどなど美味しかったです

- 13:50～16:30 ワークショップ
「悩み」別にグループに分かれこれまで活動を行ってきて突き当たっている「壁」や今抱えている「不安」について、解決の糸口を見つけるために話し合いました。学生は「企画・活動・団体」と「広報(図書館外での)」のグループに分かれて参加しました。

〈ワークショップの進め方〉

A.『原因は何だ!?』—原因分析の航路 B.『ミライに近づこう』—目標設定の航路
ワークショップで話し合った内容はポスターにまとめて、ポスターセッションをしました。



一生懸命説明中…

本学でも役に立つ情報を
入手することが
できたかな？



- 17:00
愛媛大学図書館見学

図書館サポーター(LS)の皆さんが案内してくださいました。



シンポジウム参加報告



2日目：9月6日 水

9：30－11：45 ポスターセッション

事前に作成したポスターが会場に掲示され、その前で本学図書館サポーターの活動について、説明しました。ポスターは自由に見て回ることができ、様々な大学の方から、質問が飛び交いました。

就実大学に寄せられた質問のうち、多かったもの

- 図書館ゲームの方法について
- リレー小説の内容について
- 図書館セミナーの内容について
- ブックカバーの作り方や配付方法について



ポスターは自由に見て回ることができ、様々な大学の方から、質問が飛び交いました。その都度、小野君が丁寧に受け答えしました。

他大学のポスターセッションで印象に残ったもの

- 島根大学：ミーティングの時に**アイスブレイク**を取り入れ、学生同士のコミュニケーションを取りやすくするための工夫をしている
- 広島修道大学：**メンバーの自己紹介冊子**を作成している
- オープンキャンパスの時に「**書庫ツアー**」を実施している
- 梅光学院大学：ヒプリオバトルに力をいれている 等々



11：40 閉会



駅前のカラクリ時計を見学し、昼食を取って、お土産を購入しました！

11：45－
松山大学
図書館見学

これからの取り組み
学生同士のコミュニケーションが取れるよう「**自己紹介冊子**」を作成し、ミーティングの時に**アイスブレイク**を導入する。



※アイスブレイクとは緊張をほぐすためのきっかけ。研修の前にゲームをおこなったりすること。

参加メンバー
小野太地（表現3年）安宅星夏（表現2年）
黒瀬知子（図書館職員）

安宅星夏（表現文化学科2年）の感想

今回、はじめて学生協働交流シンポジウムに参加させていただきました。2日間のうち、私は1日目だけ参加させていただいたのですが、それでも非常に多くの刺激を受けることができ、深い学びを得ることができました。

1日目の午後から行われたワークショップでは、各団体が抱えている「悩み」別のグループに分かれ、他大学の人たちと解決策を練り合いました。私は「企画・活動・団体」のグループに所属して話し合ったのですが、どこの大学も私たちと同じような悩みを抱えているということがわかりました。学生協働交流シンポジウムに参加するまでは、図書館サポーターといえば本が好きな大人しい学生の集まり、というようなイメージがあったのですが、他大学の学生を見てみると澆刺とした人がとても多く、また自身の大学図書館の未来を見据えた人ばかりで、衝撃を受けました。

私にとって真新しいと感じる企画を行っている団体がいくつかあったのですが、その取り組みのひとつとして、広報にSNSを利用するというものがあります。みなさん御存じのとおり、就実大学・就実短期大学図書館は、学生の本に関する「やりたいこと」を叶える自主企画を今年から行っています。柔軟かつおもしろい企画ばかりですが、図書館サポーター以外の学生は、この活動…どころか団体の存在すら知らない人も多いのではないかと思います。また、知ってはいるけれど、どういった雰囲気ですべての何をしているのかわからず、参加を躊躇してしまうという学生もいるのではないのでしょうか。そういった人たち向けにTwitterをはじめとしたSNSを利用して活動の楽しさを伝えていくことができれば、団体の広報になりますし、外部を意識することでサポーター内の意識向上にも繋がり、さらに活動を盛り上げられるのではないかと考えます。現時点での実現はいささか難しいですが、いずれSNSが広報活動のひとつとして認められる日がくることを願っています。とはいえ、外部より先にまずはサポーター内での絆をより深めていく必要があります。現在学生間の交流があまり図れておらず、話し合いの際など雰囲気さがこちなく感じるときがあります。今は事務的な関係であるように思いますが、一人ひとりが友人のような関係になることができれば、もっと楽しい活動にできるはずです。今回の学生協働交流シンポジウムで得た「自己紹介冊子」と「アイスブレイク」を新たな活動として取り入れることで、さらにより団体へと成長できればと思います。

図書館より

2016年度より学生と共にシンポジウムに参加しています。参加する度に学生は大きく成長し、頼もしくなっています。他大学との交流からは、様々な活動のヒントや共通の悩み、それを解決するための話し合い、それらの内容をまとめて発表するといった、これから社会に出て必要となることを体験します。今後は一人でも多くの学生が参加できるよう、体制を整えていきます。サポーターの皆さん、2018年度は広島大学です。是非参加しましょう。



図書館ゲーム

表現文化学科 大島佳奈美

2016年に、図書館のクリスマス企画として開催された図書館謎解きゲーム。それを2017年にもう一度やろうということで企画が始まりました。

当初は、司書課程の授業の受講者で企画したゲームでしたが、今回は図書館サポーターの有志でやるということで、みんなで色々話し合いながら進めて行きました。

前回は問題が難しかった、図書館に詳しくなくて場所がわからない、という声をたくさんいただいたので、「この問題は難しすぎないか?」「どこに答えを隠したらわかりやすいか?」と色々試行錯誤しました。

また前回は今回も、問題の中に「図書館の知ってほしい場所・機能」を入れて、問題を解きながら図書館のことを知ってもらえるように工夫しました。

その結果、「楽しかった」「またやりたい」などのたくさんの反響をいただきました。次回の企画では、今回の参加者の皆さんからもらったアドバイスを参考に、より図書館を知ってもらおうゲーム作りをしていきます。



リレー小説

生活実践科学科 浅田 伶真

『リレー小説』の企画は、「小説を書いたことのない人にも、こういった機会を通じて小説を書くことに気軽に触れてほしい」と考え活動をしています。

一人で小説を完成させるのではなく、一つの小説をバトンのように、誰かから受け取り誰かに渡すのがリレー小説です。話一つを自分一人で完成させるよりも、気軽さがあるのでただの小説ではなく、リレー小説を選びました。

その甲斐もあり、今回参加していただいたメンバーは、ほとんどが小説執筆初心者でした。

初心者とはいえ、日々レポートなどの文章を書くことに親しんでいる皆さんなので、初心者経験者云々ではなく、自分が書いてみたいテーマで分かれてもらいました。グループは二つ。『ヒューマンドラマ』と『ミステリー』です。グループに分かれたら小説のあらすじや登場人物。書く順番を決め、執筆をスタートしました。

『ヒューマンドラマ』は、どんな話にしたらヒューマンドラマらしくなるのか。『ミステリー』はどのようなトリックにするか。グループ内で知恵を絞り、小説の完成に向け奔走しています。

今回の『共翔』が発行される頃には、どちらのグループの小説も完成する予定となっております。この企画を通じ、自分で物語を創造する楽しさが広められることを願っております。

ピブリオバトル

表現文化学科 水島 彩華

私たちピブリオバトルのメンバーは、7月19日に図書館サポーターの有志と、就実ピブリオバトル同好会の方で、就実大学図書館にある本でピブリオバトルを行いました。

ピブリオバトルとは、3人以上の人が集まり、それぞれが自分のおすすめの本を持ち寄り、1人5分でその本のあらすじや読んだきっかけ、魅力などを伝え、その後3分の質疑応答を行います。そして、それぞれが紹介した本で一番読んでみたいと思った本に投票し、一番読みたいと思った本である「チャンプ本」を決めるゲームです。

人数は4人と、当日は思っていたよりあまり人が集まらず、その関係もあってチャンプ本は決めませんでした。

今回ピブリオバトルで使用された本は、貴志祐介さんの「青の炎」、競作集「きっと、夢にみる」、藤野恵美さんの「わたしの恋人」、佐倉淳一さんの「ボクら星屑のダンス」でした。



読書会

表現文化学科 小野 太地

読書会は、回それぞれに与えられたテーマに沿った本をメンバーにプレゼンする企画です。プレゼンする方法は自由で、フリップやホワイトボード、レジュメなど発表者が用いることができます。また、プレゼン前に小企画も短い時間で行っています。緊張をほぐし、会話が盛り上がるので、プレゼンする前の雰囲気を良くできます。小企画・プレゼン・雑談。これらをしてメンバーと本の興味や魅力を共有します。



第一回目は、テーマが「わたしの好きな本」で行いました。小企画では、メンバーそれぞれの好きな本を10冊書いたプリントを作り、交換し合いました。一回目なので、最初メンバー同士の会話があまり弾まなかったのですが、小企画をしてみると時間が足りないと感じるほど盛り上がりました。好きな本には多くの思い出と伝えたいことがありまだまだ語りた、好きな本も10冊に抑えるのが難しいとの意見をいただきました。プレゼンもその雰囲気を引き続けることができ、各メンバーの本に対する思いが伝わってきました。

読書会は、このように話しやすい雰囲気で話したいことを気楽に話せる場になれていると感じ嬉しかったです。

まだ、読書会は始まったばかりですが、多くの人に参加し多くの本がプレゼンで紹介されていくようにしていきたいです。

絵本の読み聞かせ

初等教育学科 江本 茉奈佳

2017年10月26、27日と11月9日に、就実こども園で図書館サポーター自主企画である絵本の読み聞かせを行いました。この企画には、図書館サポーター8名が参加しました。こども園の3、4、5歳児クラスを対象に年齢別に集まってもらい、最初になぞなぞを出し、次に一般的なサイズの絵本5冊持って行った中から子どもたちに2冊選んでもらって読み、最後に大型絵本を読むという内容で、30分程度行いました。絵本は、3、5歳児は動物、4歳児は食べ物というテーマを元を選びました。わたしを含む3名は、4歳児クラスで読み聞かせを行いました。

最初に導入としてテーマに沿ったなぞなぞをすると、子どもたちは元気よく答えてくれ、図書館サポーターと子どもたちの距離が縮まりました。また、絵本を選んでもらう時、自分が読みたかったものに手をまっすぐ挙げて、絵本を選んでくれました。大型絵本では、『からすのパンやさん』を読みました。一般的なサイズの絵本で読んだことはあっても、大型絵本では読んだことがない子どもが多く、様々なパンが見開きに描いてあるページでは、それぞれ気になったパンを指さしたり声に出してパンの名前を言ったりしていました。



今回の企画では、子どもの反応を見ながら読み、普段の活動では経験できないことができたので、貴重な時間となりました。こども園の先生から絵本の読み聞かせでの改善点を教えていただいたので、そのことを活かしながら、今後も活動したいと思えます。





第4回

ブックハンティング報告

『ブックハンティング』を学生協働の一環として始めてから4年が経ちました。この行事も定例となり、今年度も夏と秋に2回開催しました。今まで継続してきたから出来たこととして、リピーターの学生が多いこともありますが、友達を誘って参加してくれるということが挙げられます。事前説明を図書館サポーター（学生）が行ったり、また、選書したい図書を事前に調べていたり、当日書店の方から取扱説明を受けた図書データ読み取り機器をスムーズに使ったり、感心することばかりでした。書店では、それぞれが書架の前で一冊一冊を手にとって選書をしている姿、真剣な眼差しはとても印象的でした。参加者数も昨年より多く、図書もかなり多く選書されました。

平成29年度ブックハンティングでは、夏の開催で139冊、秋の開催で55冊、合計194冊の図書を学生が選書しました。ホームページに一覧表として掲載していますので、ご覧ください。

選書後、図書館で重複チェックをして購入が決定し、受入・目録・分類等の登録作業が終わったら、選書を行った学生本人に図書が手渡されます。本の紹介としてPOPの作成を行います。文字での表現、それ以外に画像やイラストが入り、パソコンで整えられたものから温かい手書きのものまで様々なPOPが仕上がりました。この一つ一つには同じものはなく、選書時の思い以上のものが詰まっていることがよく分かります。

仕上がったPOPと図書が図書館に戻ってくると、ブックハンティング選書図書として一緒に新着図書コーナーに飾られます。伝えたい思いがPOPをとおして高揚感と親近感が伝わってくるからでしょう。立ち止まって手に取る利用者が多く、また貸出も多くあります。

日々の課題などで忙しい学生たちが必死になって選書、POP作成をしてくれましたが、行事が多い秋は例年参加者が少ないことから、次年度は夏開催の年1回に改めることを検討しております。様々な学生協働を試みているなかで、このブックハンティングの事業には学生が持つ力や勢い、満足感を特に感じます。

参加したことがない学生の皆さんも、どうぞご参加ください。



ブックハンティングとは？

書店で好きな本を選べるイベントです。選書額の範囲なら何冊でも選ぶことができ、選んだ本は図書館の書架に並び、優先的に貸出ができます。これは、学生協働（図書館業務の一端を、職員とともに、利用者でもある学生が担う活動）の一環で、学生の主体的な学びへのきっかけとなることを期待しています。

ブックハンティングの流れ

【学生】書店にて選書→【図書館】重複等をチェックして本を購入→【図書館】受入・目録・分類等登録作業→【学生】POPを作成→貸出開始・新着図書コーナーへ一定期間展示

夏

【1回目】実施日：6月24日(土)

場 所：紀伊國屋クレド岡山店

参加者：学生14名+教職員1名

【2回目】実施日：7月1日(土)

場 所：丸善岡山シンフォニービル店

参加者：学生12名+教職員3名

秋

【1回目】実施日：11月11日(土)

場 所：丸善岡山シンフォニービル店

参加者：学生5名+教職員2名

【2回目】実施日：11月25日(土)

場 所：紀伊國屋クレド岡山店

参加者：学生5名+職員3名





ブックハンティング体験記

生活実践科学科 西山 桃佳

私は、夏と秋に行われたブックハンティングに参加させていただきました。図書館にない本や、学習・就活に関わる本、講義・レポート作成に役立つ本などを選ぶことができると聞き、とても楽しみにしていました。

ブックハンティング当日には、様々な本を選ぶことができました。金額は1万円が上限でしたが、多くの本を選べました。時間もたっぷりとあって、ゆっくりと選書することができたのでとてもよかったです。私は、読みたかった小説、絵本の読み聞かせで使用する絵本などを主に選びました。お目当ての本を見つけることができたので、とても満足でした。

選書した後は、その本のPOPを作成します。POPを作るのは大変でした。けれど、その本の魅力が他の人にすぐわかってもらえるというのはうれしいこと

だと思うので、心を込めて作成しました。図書館に完成したPOPを展示してもらい、自分の紹介した本が「貸出中」になっていると、とてもうれしくなり、頑張っ
て作ってよかったと思いました。また、他の人が作ったPOPも見ていると気になったり読んでみたくなったりします。

選書して、ただ自分が読んで満足するだけでなく、選書した後にその本の楽しさを他の人にも広げていくところにも、ブックハンティングの面白さがあると思いました。

私は、これからもブックハンティングに参加していこうと思います。そして、本を読んで終わりではなく、他の人にも楽しんでもらえるようPOPの作成にも力を入れていきたいです。



アレックス・ロビラ、フェルナンド・トリアス・デ・ベス 著 田内志文 訳
『Good Luck』(ポプラ社)



公園のベンチで幼なじみのジムと54年ぶりに再会したマックスは、仕事も、財産も、すべて失って変わり果てた友人に、祖父から聞いた「魅惑の森」の物語を語るのだった。

ここからとある騎士たちの7日間の旅がはじまる。

この本は「幸運と運の違い」についてを物語の構成で語っているため、とても読みやすく分かりやすい作品です。私は小学生の時に一度読みました。ふとこの本の存在を思い出したのはお恥ずかしい話ですが、つい最近です。もう一度読み直してみると、今まで自分がしてきたことがいつかは幸運となって返ってきたりするのかなと考えて、元気を貰いました。

幸運は自然と己のもとに舞い降りてくるものだと思っていませんか? さて、それはどうでしょうか?

(総合歴史学科 大野湧葉)

渡辺和子『置かれた場所で咲きなさい』

(幻冬舎)



“時間の使い方は、そのままのちの使い方。置かれたところこそが、今のあなたの居場所なのです。「こんなはずじゃなかった」と思う時にも、その状況の中で「咲く」努力をしてほしいのです。”

苦しい時や辛い時、悲しい時、つい周囲の人や環境のせいになしたり、自分自身を見失ってしまったりすることがあると思います。そんな時こそ、是非読んでみてください。きっと前向きな気持ちや行動を引き起こしてくれます。

(教育心理学科 山本はるか)

前野 ウルド 浩太郎

『バッタを倒しにアフリカへ』

(光文社新書)



この本は、バッタ研究で博士号を取り、更なる研究のために単身アフリカに渡った著者が現地での過酷なフィールドワークや異文化の中で暮らす中で、の難しさ、現地の多彩な人々との交流などを綴った1冊です。ちなみに、表紙の全身緑色で虫取り網を構えている方はこの本の著者である前野さんです。

言葉も文化も日本とは全く異なるアフリカのモーリタニアで、現地の研究所職員に相場以上の給料を請求されたり、刺されたら死ぬ可能性のあるサソリに刺されたり、30万かけた飼育ケージがあっさり壊れてしまったりと様々な不運や困難にあっても、常に前向きにチャレンジを続けていく著者の姿に勇気づけられます。ぜひ読んでみてください!

(生活実践科学科 葉利彩香)

東野圭吾『名探偵の掟』

(講談社)



完全密室、バラバラ殺人、首なし死体、童謡殺人といった十二の難事件を、名探偵の天下一大五郎と、大河原番三警部が痛快に立ち向かうミステリー短編集。

著者は『新参者』、『容疑者Xの献身』などの作品で有名な東野圭吾さんが手がけています。この本は、事件が起これば探偵はうんざりしていたり、ダイイングメッセージに対し「もうすぐ死ぬ人間にメッセージを書き残す余裕なんてないだろ」とミステリーにタブーな発言をしていたり、作者に対しての愚痴を二人で零していたりと、かなり斬新でユニークな小説です。

(表現文化学科 千田瑠子)

平木 恭一

『最新銀行業界の動向とカラクリが
よ〜くわかる本』
(株式会社 秀和システム)

私は、経営学部の長期インターンシップで金融機関に行くことになり、事前に業界研究のレポートを作成するための参考文献を大学の図書館で探してこの本を見つけました。

この本は、タイトルの通り、銀行業界の基本的な仕組みや仕事内容から最新の動向までが簡潔にまとめられており、銀行業界のことをよく理解することができます。インターンシップのレポートを作成していく上でも非常に参考になりました。また、業界研究ができることから、今後の就職活動にも非常に役に立つ一冊だと思います。

就職活動が不安な方、早めに就職活動の準備を始めておきたい方におすすめです。

(経営学科 草野智久)

乙一『失はれる物語』 (KADOKAWA)



目覚めると、私は闇の中にいた。交通事故により全身不随のうえ音も視覚も、五感の全てを奪われていたのだ。残ったのは右腕の皮膚感覚のみ。ピアニストの妻はその腕を鍵盤に見立て、日々の想いを演奏で伝えることを思いつく。それは、永劫の囚人となった私の唯一の救いとなるが…。表題作のほか、「Calling You」「傷」など傑作短篇5作とリリカルな怪作「ボクの賢いパンツくん」、書き下ろし最新作「ウソカノ」の2作を初収録。

きらきらと切ない物語がたくさん詰まっています。いつまでも色あせることなく、読み返すたび、自然と涙があふれてくる、そんな物語たちです。

(表現文化学科 横山芽衣)

恩田陸『三月は深き紅の淵を』

(講談社文庫)



謎に満ち溢れた1冊の本、「三月は深き紅の淵を」を巡った4話で成り立つこの短編集。各話、それぞれ細部から謎が満ち溢れているこの本に、気付いたら引き込まれているはず。各章に登場する人物たちの会話の掛け合いでゆっくりとじわじわ謎が明かされていくミステリアスな本。

最後のどんでん返しで謎は余計に深まるような読み味がなんとも巧妙で複雑な感じ、だけど不快な感じはしない自然ともう一度、読みたくなる本です。恩田陸作品が好きな方はもちろん、初めて手にする方も、きっとこの本を読んだ後、本自体の構成のトリックに気付いたら、他の作品に自然と手が伸びることは間違いない作品です。

(実践英語学科 天久なる海)

池井戸潤『オレたちバブル入行組』

(文藝春秋)



主人公の半沢直樹はバブル期に大手銀行に入行し、今は支店の融資課長。支店長命令で無理に融資した会社が倒産。責任を押し付けようとしてくる支店長らに立ち向かいながら、不可能に思える債権回収に奮闘し、裏にあるからくりを暴いてゆく。基本は性善説・だがやられたら、倍返し。読み出したら止まらない痛快エンタメ。

この作品は「半沢直樹」というドラマにもなったシリーズの第1作です。ドラマを見たことがある方でもない方でも楽しめる作品だと思います。著者は「下町ロケット」や「空飛ぶタイヤ」などでも知られる池井戸潤さん。興味を持った方はぜひ読んでみてください。

(薬学科 天久日菜子)

My Library マイライブラリ機能について 図書館 HP を利用しよう! ③

新着情報編

スマートフォンからも
アクセスできるよ!



“ゼミの先生から新しく入る予定の図書を紹介された。
ぜひ見てみたい!”

“新しく入った小説が読みたい!”

そんな時は、「新着情報」の機能を利用してみましょう。
図書館にいなくても新着図書がわかる便利な機能です。

ログイン!

図書館 HP → MENU → My Library をクリック

ログイン

入力
利用者IDとパスワードを入力して「ログイン」ボタンをクリック

利用者ID :

パスワード :

ログイン キャンセル

学内 PC にログインするときと同じ ID & パスワードを入力します

マイライブラリでの操作が終了したら、必ずログアウトしてください。
ログアウトするには、画面上部の「ログアウト」ボタンをクリックします。

!! 注意!!

・使ったあとは必ず をクリックしてから終了しましょう。

・ログイン中、ブラウザの (戻るボタン) は押さないでください。

や **マイライブラリ** の文字 をクリックして戻りましょう。

自分のための新着資料を設定したい!

① まずは新着情報で条件の設定をしましょう

新着情報

条件が設定されていません。

① 「新着情報」 → 新着資料の条件

② の画面で、キーワードを入力しましょう (例: 西洋史)

新着資料の条件

あなたが登録したキーワードに当てはまる新着資料や、雑誌の新着巻号をお知らせします。

キーワード

登録されている条件はありません。登録できる条件は最大10件です。

● 新規条件: and and

② 「キーワード」 → 新しい条件 (空欄にキーワードを入力する) →

③ の画面で、キーワードを確認しましょう

新着資料のキーワード追加: 確認

① この条件に当てはまる資料は過去1年間で9件取りました。

● 新規条件: 西洋史 >> 9件 (過去1年分)

新しい条件でキーワードを確認 →

4 の画面で、新着資料の一覧が見られます

新着情報

■ 新着資料: 6件 **詳細を見る**

- はじめて学ぶイタリヤの歴史と文化。藤内哲也編著。ミネルヴァ書房、2016。
・ 3F第3閲覧室、請求記号: 237/H
- 地獄の淵から: ヨーロッパ史1914-1949。イアン・カーショー著/三浦元博、竹田保孝訳。白水社、2017 (シリーズ近現代ヨーロッパ200年史)。
・ 3F第3閲覧室、請求記号: 230.7/I
- 新しく学ぶ西洋の歴史: アジアから考える。南塚信吾、秋田茂、高澤紀恵責任編集。ミネルヴァ書房、2016。
・ 3F第3閲覧室、請求記号: 230/A
- 暗黒の大陸: ヨーロッパの20世紀。

詳細を見る → OPAC と同じ画面 (詳細) が表示されます

番外編

新しい図書が知りたい! 「My Library」「OPAC」どちらからでも見ることが出来ます

1 まずは新着図書リストをクリックしましょう

検索条件入力

簡単検索 | 詳細検索

検索

● 対象データベース : ● 本学所蔵 ○ NACSIS目録
● 資料の種類 : 図書 雑誌

新着リスト・貸出ランキング | マイライブラリ

2 新着リストをクリックしましょう

カテゴリ検索

新着リスト・貸出ランキングトップ

- 新着リスト**
- 過去1年間の貸出ランキング
- 貸出回数が多い資料の一覧です。

様々な機能を使ってね

新着リスト → 過去1年間のリストが月ごとに表示されます

文庫本を探して見よう! ③
角川文庫・新潮文庫編

* “『角川文庫』『新潮文庫』ってどこにありますか?” という質問をよく聞きます。

★ 文庫本を探すポイント ★

OPAC で検索 → 所在に **2F 文庫コーナー** と表示されたら
→ **請求記号** に表示された **カタカナ** に注目!!
本の背に下の図のような **ラベル** が貼ってあります。
* 文庫架にはカタカナの**50音順**に並んでいます

校閲ガール

宮木あや子

校閲ガール

宮木あや子 [著]
東京: KADOKAWA, 2016.8
Amazon.co.jpで詳細を見る

本の背 拡大図

校閲ガール

ブックマーク

所蔵:	巻号	予約人数	所在	請求記号	資料ID	資料種別	貸出区分
1	<input type="checkbox"/>	0	2F文庫	文庫 文庫 文庫	900222592	文庫本	

必ず『文庫名 書名 著者名 (請求記号 文庫/カタカナ)』をメモしましょう。
文庫コーナーの配置地図をOPACコーナーに貼っているので、確認しましょう。

“実習があって、調べ物ができない!”

“図書を使いたいの、図書館が閉まっている!”

“就職活動が忙しくて図書館に寄れないけど、就職関係の図書が読みたい!”

そんなときに便利なのが、e-Book(電子書籍)です。

本学図書館には、約780点を超えるe-Book(電子書籍)があります。リモートアクセス登録をすれば、家や通学中でも、読むことができます。今回はリモートアクセスの方法をご案内します。



Maruzen eBook Library のリモートアクセス登録をしてみましょう!

ポイント

学内PCから手続きを行います!

図書館HP→MENU→e-Book(電子書籍)をクリック



Step1

認証IDとお名前を登録



①MARUZEN eBook Library メニュー画面の右上 就実大学の左側「アカウント」をクリックします。

ユーザー認証アカウントの登録

認証ID (メールアドレス) : hanako@maruzen.co.jp

認証ID (メールアドレス) 確認: hanako@maruzen.co.jp

お名前: 丸藤 花子

アカウント登録前、下記の利用規約をお読みください。

「Maruzen eBook Library」(以下、「本サービス」)を運営する丸藤株式会社(以下、「当社」)は、お客様の安心して「Maruzen eBook Library」をご利用いただけるよう、プライバシーポリシー(個人情報保護に関する基本方針)を定める個人情報保護に取り組んでいます。

1.個人情報利用目的について
当社は、以下の目的で利用するために、お客様の同意のもと、個人情報をお集まりさせていただきます。

- お客様のユーザー認証アカウント登録により、本サービスの利用機能を提供するため

利用規約に同意して次へ キャンセル

2

②認証ID、氏名を入力し、利用規約を確認し、「利用規約に同意して次へ」ボタンをクリックします。
*認証IDは大学から配布されたメールアドレスを入力してください。
詳細は図書館までお問い合わせください。

ユーザー認証アカウントの登録/更新

登録内容の確認

認証ID (メールアドレス) : hanako@maruzen.co.jp

お名前: 丸藤 花子

登録 キャンセル

3

③メールアドレスと氏名が正しいことを確認して「登録」ボタンをクリックします。

Step2 確認メールを受け取って、パスワードを登録



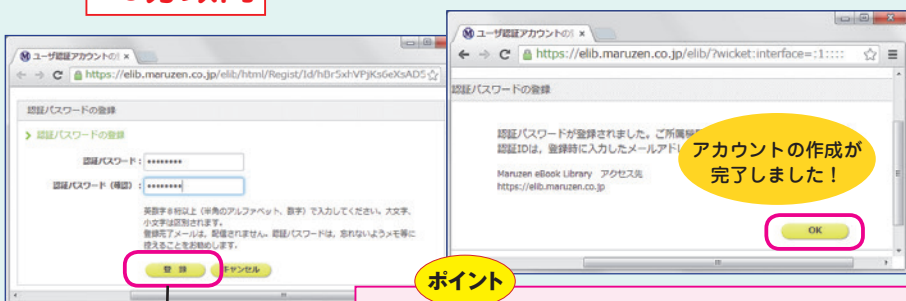
Step1で登録したメールアドレス宛てに確認メールが届きます。
* 確認メール送付元：ebook-guide@maruzen.co.jp

アカウント登録を完了するには、下記 URL にアクセスして認証パスワードを登録してください。
20分以内にアクセスが無い場合は無効となります。

認証パスワードの登録

<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/Regist/Id/hBr5xhVPjks6eXsAD5wMdpTaq3E>

20分以内 に確認メールに記載されたURLにアクセスしてください。

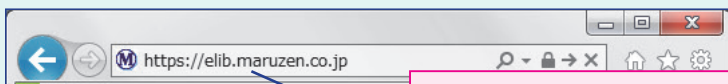


認証パスワードを入力して「登録」ボタンをクリックします。

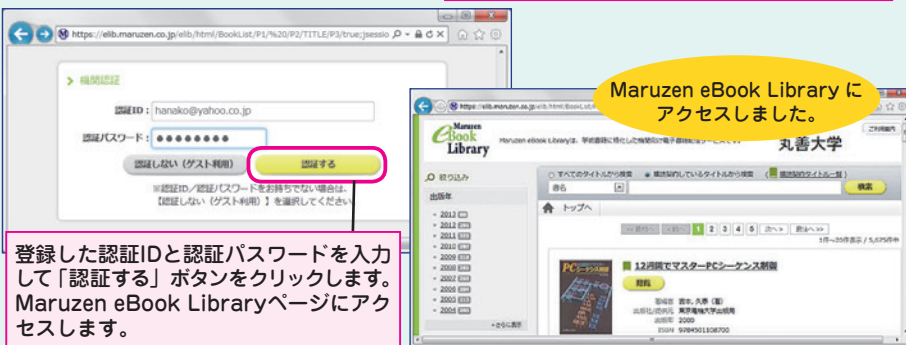
ポイント

* 英数字8桁以上12桁以内(半角のアルファベット、数字)で入力してください。大文字、小文字は区別されます。
* 登録完了メールは配信されません。
認証パスワードはメモ等に控えることをお勧めします。

Step3 所属機関の外から Maruzen eBook Library にアクセス



Maruzen eBook Libraryにアクセスします。
* アクセス先 <https://elib.maruzen.co.jp>



登録した認証IDと認証パスワードを入力して「認証する」ボタンをクリックします。Maruzen eBook Libraryページにアクセスします。

Maruzen eBook Library にアクセスしました。

**アカウントは延長手続き
が必要です**

アカウントには **90日間** の有効期限があります。延長手続きは、学内のパソコンからMaruzen eBook Libraryにアクセスして画面右上のアカウントボタンをクリックします。

図書館と コラボ しませんか？

図書館のスペースを使って、作品の展示やイベントを開催しませんか？
例えば、絵や写真を飾ったり、絵本の読み聞かせ会を行ったり、学生参加型のゲームをしたり…。
アイデアのあるかたは、お気軽にカウンター職員へお声かけください。



写真部とのコラボ



図書館棟空調工事にもなう臨時閉館について

図書館棟の空調機器改修工事にもなう閉館することとなり、ご利用の皆様には多大なるご迷惑をおかけいたします。閉館期間中の図書館業務につきましては、S館204情報教室にヘルプデスクを設置し、返却や参考調査、電子ジャーナルやデータベースの使い方に対応いたします。何とぞ、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【閉館期間】 2018年2月10日(土)～3月27日(火)

共翔 第25号

編集・発行
就実大学・就実短期大学図書館

平成30年2月20日発行

〒703-8258 岡山市中区西川原1-5-22 TEL(086)271-8134 FAX(086)271-8275
ホームページ <http://www.shujitsu.ac.jp/category/toshokan>

※館報の題字は押谷善一郎名誉教授の書によるものです。